

改植をすすめ、良質な川根茶を作りましょう



今回お話を伺った、大井川農協川根営農経済センター芦沢副主幹

的に30年〜35年と言われており、定植後30年が経過した茶園は改植する必要があまりありません。また近年のレール式摘採機や乗用型摘採機の普及により、経済樹齢は20年〜25年と短くなっている傾向にあると言われており、栽培技術によっても変わってきます。

だけでなく隣近所の茶園についても「畝の通りを揃える」など機械化に適した整備を進める必要があるということです。さらに乗用型の導入を考えた場合、摘採面のアール（弧）が変わるので、それに合わせた畝の幅や畝の長さも検討しましょう。

品種については、販売までを考えた導入を心掛けてほしいと思います。

川根茶の産地、その名声を維持していくためには、良質な茶を生産していく必要があります。良質茶生産には、製造技術や熱心な茶園管理が大切ですが、若い良質な茶樹で茶を栽培することが基本です。以前より老朽化茶園の改植推進は重要であると言われていますが、今回は大井川農協川根営農経済センター副主幹であり、日本茶インストラクターでもある芦沢哲哉さんに茶園改植についてお話をお聞きしました。

何年後から摘採可能？

以前は成園まで7年掛かると言われてきましたが、最近はペーパーポット苗の普及や複条植えによって3年目からハサミによる摘採が可能でです。

作業手順は？

改植は計画的な作業が重要です。実際の改植作業は、秋に抜根し、植溝を掘り、土壌改良と有機物の投入、土の埋め戻しを行い、3月下旬頃から定植となります。さらに先にも述べたとおり、将来を見据えて畝の方向や植え方等を検討する必要があります。



ペーパーポット苗は、着根が良く生育にも優れます

碎機やバックホーによる、抜根作業の受託なども行っていますので利用するといいでしょう。また、ペーパーポット苗の生産も行っているため、利用し改植をすすめてほしいですね。

必要な理由は何？

作物としての茶には、生産性等を考えた経済樹齢があります。この経済樹齢とは生産性が高く、良質な茶葉を生産することができる期間です。この経済樹齢を超えてしまった茶樹は改植によって生産性の高い優良茶園として確保する必要があります。

定植後何年が適切？

改植までの年数は、一般

行う場合の注意点は？

定植すると、次の改植までは株の直下およびその周辺の地下部は管理できなくなります。このため、定植前に土壌改良や有機物の投入を行う必要があります。

また将来を見据えて、乗用型摘採機導入などの機械化に対応した園地整備を考慮しておく必要があります。つまり、改植茶園の周りの園主と相談し、個々の茶園



機械化を進めることで、摘採可能な茶樹の高さも変わります。

作業の省力化は？

抜根は重労働ですが、幸いにも川根本町では町農林業センターにおいて茶樹粉